

1. 事業名： 親子で育ち 地域にひろげ つなげる自主保育
2. 実施団体： 子育てサポート「スマイル」
3. 協働担当課： 美作県民局健康福祉部福祉振興課（子育て支援班）

4. 事業概要

地域と連携しながら民間主導で、安心して子どもを産み育てられる環境を整備するため、保護者同士で子育てをサポートする体制を構築した。その運営を地域及び保護者が自主的・自立的に行う自主保育の仕組みを定着させていくために活動内容の充実と発信のしくみづくりを行う。また今後、継続した運営を目指すことで、子育て支援の輪を広げ、安心して子育てができる地域づくりに取り組みます。

- 自主保育「たけのこ」の活動を週1回から週2回へと充実させ、生活リズムの向上、保育活動のさらなる定着をめざす。また保育の質と保護者の育児力を高める手法を、大学研究者等の専門家、行政等との協働により確立する。
- 週2回の自主保育によって新たに生まれた保護者の時間を、活かしていく地域参画の仕組みづくりを構築しながら、包括的に地域社会へとつながる。
- 自主保育「たけの子」の活動の様子をPRし、情報発信する仕組みづくりを行う。

5. 実施内容

●自主保育「たけの子」の運営内容の充実

自主保育「たけの子」を週2回、火曜日・水曜日の午前中に運営しています。家庭的な雰囲気の中で子どもが自ら遊び、学びあえる場づくりを目標に、遊び込める、わかりあえる、助け合う、役割をもつ、自分の場所になる！をキーワードに取り組んでいます。火曜日の活動は、活動責任者（保育士1名）と当番の保護者が協力しあって保育を行います。活動の終わりにその日のふりかえりを行い、子どもの様子や活動中の関わりについて、気づきのメモ帳（当番保護者）、活動記録シート（活動責任者）に記入します。水曜日の活動は、当番の保護者にかわり、先輩ママや支援者が担います。日々の記録を持ち寄り、月1回のふりかえり学習会「つながる時間」で全体に報告、共有します。

【自主保育「たけの子」】

場 所：子育て等支援施設なぎチャイルドホーム（多目的室）

参加人数：対象児 2歳半～就園前の子ども 13名

※付き添いの兄弟 3名

世帯数 13世帯（H30.3月現在）

活動日数：毎週火曜日・水曜日（月6回程度）

※月1回ふりかえり学習会「つながる時間」

活動内容：9：00～9：20 集合、環境設定

9：20～11：30 コーナー遊び（ままごと、ねんど、お絵かき、積み木等）、外遊び、ごっこ遊び、造形遊び、おやつ（軽食）等

11：30～11：50 片付け、ふりかえり

12：00 おわりの遊びうた、解散

運営体制：保育責任者（保育士）1名 保育ママ（保護者）3名又は保育スタッフ（先輩ママ・支援者）

●学びのワークショップ

総合アドバイザー：三好年江先生（新見公立短期大学、幼児教育学科 助教）

子どもの成長、発達、環境、遊びを支える大人の育児力向上を目標に、「つながる時間」での保護者や活動責任者とのやりとりを元に、先進的な子育て支援の現場をもち、幼児教育学科の学生や保育士の育成に関わられている三好先生と相談して毎回のテーマを設定したワークショップを、年間6回開催しました。

1回目 6月14日（水）10時半～11時半

「情報発信のしくみづくりワーク」

内 容：HP、ブログのしくみや団体の広報、情報発信について学びました。

講師：ウェブおかやま 中西竜太さん

参加者：18名

2回目 9月26日（火） 10時～11時半

「お絵かきワークショップ」

内 容：ちいさな子どもと楽しむお絵かきのコツや素材の選び方について学びました。

講師：あさののいイラスト制作 菅原乃日さん

参加者：親子22名

3回目 10月17日（火） 10時～11時

「野山のおいしい散歩ワークショップ」

内 容：近所を散歩すると見つける事ができる山菜を学び、その食べ方を親子で体験しました。

講師：ふるさと農園 築山良恵さん・鷲田延子さん

参加者：親子22名

4回目 11月21日（火） 10時～11時半

「里山散歩ワークショップ」

内 容：苗木の仕事を見学、自然界の生命の不思議をどんぐりの生態から学びました。

講師：豊並種苗生産組合 長畑州三さん

参加者：親子24名

5回目 1月24日（水） 9時半～11時半

「食の精神と彫刻ワーク」

内 容：集中して彫刻ワークに取り組む体験を通して、暮らしを見つめ直す機会になりました。

講師：昭雲工房 山田尚公さん

参加者：10名

6回目 3月6日（火） 10時～11時半

「幼児の発達段階から子ども同士の関わりをとらえる」

内 容：日頃の保育中に起こったことや対処に困ったことを整理、共有したうえで、子ども同士の関わりをどのようにとらえ、働きかけていくのか、それぞれが考え、学びました。

講師：新見公立短期大学助教 三好年江 氏

参加者：18名

感想：今まで自分は、当番保育のときに子ども同士のケンカが起こらないようにと、先に先に声掛けをしていました。子ども同士のトラブルは、子どもが成長する大切な過程だと知ることができて、これからは様子を見守りながら関わってみようと思いました。

先生に「大人が子ども達のことを真ん中にしっかりおいて考えたり、悩んだりすることは大切なこと。」と言われて、「そうか。悩んでいいんだ。」と元気が湧いてきました。

●情報発信の強化

・ホームページ・ブログの作成

子育てサポート「スマイル」のホームページについて協議を重ね、作成することができた事で、新たな情報発信が可能となり、多くの方に気軽にアクセスしてもらえるようになった。また奈義町のホームページからも、ページを開くことができるようにしていただいたことで、より充実した状態をつくる事ができた。ホームページの中にブログページを作成し、日頃の活動の様子を気軽にお知らせする手段も持てた。

ホームページアドレス：<http://nagi-smile.com/>

・ブログでの情報発信

6月の学びのワークショップでは、HPのお披露目を兼ねて、ブログの更新について学び、毎月1回のブログ更新を目標に、それぞれの立場でブログの更新をしていける体制をつくった。

ブログ更新を進める中でチャイルドホームのネット環境、町のセキュリティ等の課題。担当者が費やす時間の確保の難しさなど課題を感じた。今後、更新者の確保が必要と感じている。

ブログ更新：6月/7月/8,9月/10月/12月/1月（H29,3月末）

・町乳児検診で活動を紹介

保健師さんの協力によって、検診時に案内してもらう事ができた。さらに効果的な情報発信にするために、可能な範囲で健診時に出向き紹介していく必要を感じている。

●子育てセミナー

保育施設関係者や在学中の学生、子育て支援関係者、子育て中の保護者や家族の方々に、自主保育の取り組みについて紹介し、これらからの保育をそれぞれが見つめ直す場となることを目的に、自主保育「たけの子」の活動報告と関東学院大学専任講師の久保健太先生を講師に迎えた基調講演を行いました。前年度同様、奈義町こども長寿課、教育委員会、町内幼稚園、保育園の協力をいただくことで、より多くの方に参加していただきやすい体制が作られました。また、三好先生のご尽力で、関係機関や幼児教育学科の学生の参加が実現し、美作県民局担当課が管内市町村や保育園・幼稚園をはじめ、広く県内の子育て支援施設等に周知・広報を実施したことで、奈義町内外から子育て支援・幼児教育関係者の方に来ていただくことができました。

子ども連れ保護者に配慮したコーナーを準備した会場は、基調講演へのお母さん参加を可能にすることができて好評でした。

このセミナー開催を通じて、自主保育の活動に関わる保護者をはじめ関係スタッフは、日頃の保育の取り組みに自信と誇りをもつことができました。

開催の概要：12月16日（土） 「これからの保育に子育ての未来を描いていく」

～子どもも大人も育ちあう時間は、人生のたいせつな贈り物～

講師：総合アドバイザー 三好年江先生

（新見公立短期大学、幼児教育学科助教）

特別講師 久保健太先生

（関東学院大学教育学部、こども発達学科専任講師）

発表者：自主保育「たけの子」参加保護者

14：05～14：50 活動報告「保護者が助け合って保育に挑戦する」

15：10～16：30 基調講演

『育ち』の原点を見つめなおすと保育・子育ての未来が見えてくる」

参加者： 78名（会場内 同伴の乳幼児9名）

託児： 13名（園児・児童4名・乳幼児9名）

託児スタッフ： 5名

アンケート： 35枚回収（別紙参照）

6. 事業実施による成果、効果、今後の課題

（1） 成果、効果

- ・家庭保育の子どもが集団生活にふれる機会が得られ、豊かな社会経験の場を広げた。

週2回の活動を続けることで、子ども同士に仲間意識が生まれ、活動を楽しみにする姿、遊びを工夫したり、助け合ったりする姿が見られ、この場が子ども自身の居場所になっている。四季を通じて継続した時間を過ごすことで、地域に出かける機会や地元の方と接する機会を増やせた。

- ・家庭（保護者）の育児力強化や子育ての負担軽減が図られた。

当番の保育スタッフとして経験を重ねる事で、子どもの育ちや遊びへの理解を深めあうことができ、活動を通して主体的に子育てを支え合う育児仲間が生まれ、互いに育児力をつける環境となっている。子どもと離れる非当番日の時間や水曜保育日が、保護者の心にゆとりをつくりだす効果も実感できた。

- ・子どもと共に育つ時間を重視した地域の子育て機関として理解を広めた。

チャイルドホームを拠点に活動することで、施設利用者にも子ども達の様子がわかりやすく、興味をもって、自ら体験を希望される親子さんがいる。また、メディアやHP、ブログ等での広報により広く理解をひろげる機会を得られた。

- ・保護者が地域とつながり、地域を理解し、将来地域で活躍する「人財」となる機会をつくった。

活動のふりかえりやワークショップを通じて、他者の子育て観にふれ、子どもの発達や遊びを知り、自分の子育てや我が子への見方が変わった。

（2） 今後の課題

- ・自主保育の安定した運営の仕組みは整ってきたが、今後も自主保育活動における保育の質を向上させる工夫を重ね、家庭保育を充実させながら無理なく社会参加できる体制づくりを進める必要があると感じている。
- ・自主保育への理解を広めていくため、安定した情報発信を継続的に行う体制を整えていく必要がある。

7. 県民局と協働した効果及び課題

- 専門家の方とのつながりや運営について助言をいただける事業となった。
担当課の方と相談を重ねる中で、広い視野と外部からの視点を併せ持ちながら活動を進めることができ、また安定した事業運営をめざして相談や助言をいただける機会をもつことができた。
- 公益性、広域性をもつ新しい事業として広く活動を知らせることができた。
自主保育の活動紹介、子育てセミナー開催に伴う詳細を担当課の方に相談できたことで、メディアへの広報機会を得るとともに、開催の周知、会場の準備等をスムーズに行うことができた。また、広く管内市町村や県内の子育て支援拠点・幼児教育関係施設等へのセミナー案内に尽力いただいたことで、県内各地から関係者の方の参加があった。結果、自主保育や保育現場での「育ち」について見つめ直し、保育や子育ての未来を考える機会となった。
- 今年度以降も安定して活動することができる事業となるよう取り組むことができた。
2年間の美作県民局との協働事業を通じて、事業の基盤づくりを行ったことで奈義町との連携を深め、自主保育「たけの子」の周知と活動意義への理解が得られた。平成30年からは奈義町から委託を受ける形で事業を継続、発展させてしていくことができる事となった。
- 自主保育が新しい子育て支援の事業として定着していくためには、取り組みをふりかえり、まとめ、報告していく時間をもつことは必須だと感じている。また、継続した学習機会が必要であるため、今後も関係機関と連携した子育てセミナーを実施していきたいと考えている。これからも美作県民局や奈義町をはじめとする関係機関となんらかの形で協働、連携していくことができるかが今後の課題である。